

October 9, 1990

Cable No. 705 from Ambassador Obara Takeshi (Oman) to the Minister of Foreign Affairs, 'The Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting with Sultan Qaboos)'

Citation:

"Cable No. 705 from Ambassador Obara Takeshi (Oman) to the Minister of Foreign Affairs, 'The Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting with Sultan Qaboos)'"', October 9, 1990, Wilson Center Digital Archive, Published online by the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File 2021-0533. Translated by Stephen Mercado.
<https://digitalarchive.umd.edu/document/300983>

Summary:

Summary of Japanese Prime Minister Kaifu's meeting with Omani Sultan Qaboos to discuss the Iraqi invasion of Kuwait. The two discuss Japanese-Omani relations and approaches for ending the conflict between Iraq and Kuwait.

Credits:

This document was made possible with support from The Woodrow Wilson International Center for Scholars

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

04-035

政経外保
大務務 典房
次次 審長
臣秘官官審審長長

ア経外査即 博
大大 察位 代
使使研審準 表

総番号 R202541
月 9日
平成 2年 10月 9日

外務大臣殿

主 管
オ マ ー ン 発 近 1
本 省 着
小 原 大 使

対文会厚情オ
括 審察人 在 警史

報 官 参 内外

文 長 審 一二

長 参 政保对旅外

長 参 地中東
参 北東西

米 長 審 二保地

中 南 長 参 一二

欧 長 参 西ソ洋
西 東

ア 長 参 二

次 参 途博

参 参 漁国
参 参 国
安 二

参 海 参 準

参 参 国開
参 参 理

参 参 条協規

国 参 政経人
長 参 軍社

科 科 原
参 参

情 参 情析調
長 企 安

総理の中東訪問（カブス国王との会談）

第705号 極秘 大至急

8日、海部総理は王きゆうにてカブス国王と午後7時から約1時間半にわたり会談を行つたところ概要次の通り（当方 オワダ外審、小原大使、ワクナベ近ア局長、先方 スワイニ国王代理、カイス・ザワウイ副首相、オマル・ザワウイ国王顧問、ハイセム外務次官同席、通訳ツルオカ）

（海部総理）御即位20しゆう年を心からお祝い申し上げる。飛行場からの車中でオマーンの近代化はこの20年間のことであるとうかがつた。

（カブス国王）おいそがしい中を御来訪いただきかん迎する。この20年のうち当初の5年は内乱の平定に要し、開発はこの15年のことである。従つてはしる必要があつた。

（総理）日本とオマーンは海洋国家としての共通性を有し協力関係にある。今次訪問を機会に両国の相互依存関係を一層前進させることを期待。

（国王）御親切なお言ばに感謝。日本は四面を海に囲まれ、オマーンは三方を海に、他の一方をさばくといふ海に囲まれている。強い基礎を持つ日本・オマーン関係が、今回の御来訪を機会に更にレンガを積み上げるような前進があることを期待。

御承知ではないかもしれないが、私のそふは退位した後、オオサカに住んだ。私の家族と日本とは長い関係がある。

（総理）御そふへい下が3年間コウベに在住され、日本女性と御一しよであつたことは承知しており、日本では親近感をもつて語り継がれている。日本国民はオマーンにあたたかい気持を持つている。ついでに来年秋から再来年春にかけて御都合のよい時期に訪日されるよう御招待申し上げたい。

（国王）有難う。お受けするよう真けんにかえたい。いくつか考えなければならない要素があるが、かみの

電信写

御意思が訪日を許すのであれば非常なよろこびである。御招待に感謝する。

(総理) もつと早くうかがう予定であつたが、イラクのクウェイト侵攻のため延期をした。その点御理解をいただき、また今回心良く受け入れていただいたことを感謝する。

(国王) あの時期の御来訪は適当でなかつた。中山外務大臣を派遣されたことを多とする。この時点でこの地域をおたずねになることが、日本が如何に中東に関心をもち理解を深めようとしておられるかを示している。われわれにとつては、日本が地理的にはとくとも、考え方や友人とともに立ち上がるという意味で近い存在であるとの安心感を与える。

(総理) GCC議長としての御努力にけい意を表す。武力による侵攻は日本の国の基本からいつでも認められず、国連決議に従つて公正かつ平和的に解決されなければならないと考える。同じ立場の国々に政治的支援を与えたいと考え来訪した。この機会に、へい下の今次事態の将来、平和的解決への展望等をおうかがいしたい。

(国王) アラブ世界の中に二つの考え方がある。一つは、ギブ・アンド・テイクで平和的解決が可能との考え方で、これは少数派である。もう一つは多数派であるが、平和的解決は、撤退・譲歩の徴こうが無いというイラクの立場から考えてあまり希望はないとの考え方である。双方ともクウェイト侵略は容認せず、この行為を非難し撤退を求めている。第一の考え方はイラクとの取り引きにより解決の道があるとするもの、第二は安保理、アラブ連盟、イスラム諸国会議等世界の大勢の立場であるが、イラクは無条件に撤退すべしとするものであり、イラクとの対話の道はないとするものである。自分には圧力によつてイラクが平和りに撤退するかどうかわからない。今のところその徴こうはなく、最近のサッダーム・フセインのクウェイト訪問のように占領を強化し自この立場に固執している。イラクの希望していることは、このまま時間がたてばクウェイトの占領が受け入れられていくということであろう。そこでこの問題をパレスチナ問題その他の問題とリンクして関心を他にそらそうとしている。世界はそれを認めず、撤退に向かつて圧力をかけ続けるであろう。撤退はあり得よう。イラクがUターンすることは有り得る。その場合は、全世界にイラクに対する敵対的ないん態があるので強く独立であり続けるためには撤退する、というのかもしれない。この可能性は排除できないという意見がある。

(総理) 本件の今後については深刻なゆう慮をいただいている。イラクは他の意見を聞かない独善的な国と思

09/11:06

0231 04/04 P03 R202541

極秘

電信写

われる。ただ、問題は今やアラブの内だけでなく、世界の問題になつている。米、ソ、日本を含め湾がんの平和回復のための国連決議を支持している。アンマンでラマダーン・イラク第一副首相に会い、世界が武力によるせい瀝を受け入れるはずはない、イラクは撤退及びクウェイト正統政府の復帰を決断すべき旨くり返し強調したが、反応はなく平行線であつた。国際社会の正義のために、国際社会が一致してイラクの反省を迫ることが必要である。

(国王) 全く同感である。イラク人は、米、欧の民主主義体制のもとで圧力をかけ続けることは不可能である。世論や財界が制裁を続けることにたえられず、政府の考え方を交え、イラクに有利な状況になると考えている。

どの様に危機が終わるかについては、推測の他にないが、当地域及び派兵国の世論からみてサウディアラビア及び当地域に展開している現在の軍事力、兵員数が長期間続くことはできないであろう。彼らは行動を待つている訳で、それがなければ自信を失なつていく。問題が平和りに解決されることを心から望む。今後2ヶ月で解決されることを望んでいる。それが不可能ならば他の方法を考えねばならない。さもなければテロを初め他の問題がおこつてくる。確認はできないが、クウェイトを脱出した軍人が最初の戦火を開き軍事行動に火をつける可能性があるとの情報もある。これは人々がこう着状態の打開を考え出そうとしている徴こうであろう。イラクには密輸もあり、制裁は問題無いと考えているかもしれない。年末にはいら立ちが高まろう。アメリカ等が危機の解決そのものでなく石油に対する影響力の強化をねらつている、とイラクその他が言つている。この種の発言はくり返されると人がそれを信ずるようになるので、それが真実でないことを反論する必要がある。

(総理) ジョルダンのフセイン国王からへい下によるしくとのことであつた。フセイン国王は、危機の発生以来、何とかこれをおさめようとほん走しておられるが、フセイン国王の考えているような解決をどう思われるか。ジョルダンはイラク・イスラエルにりん接して極めて難しい立場にあり、他方、中長期的には地域の安定にとつて重要と思う。

(国王) フセイン国王は同じアラブのくん主としてきようだいであり、親友である。「フ」国王は平和的解決が可能な限り最善の努力を払うであろう。ただ不幸にして、この問題に関する限り「フ」国王はアラブのきようだいの間で信頼を失つた。その理由は、サッダーム・フセインが親切で思慮深くけん明でかん容であ

11:06 0231 04/04 P04 R202541

極秘

電信写

りアラブの大義を心に持つ等とほめてきたからである。「フ」国王はこれを信じているのであろうが、これは判断の間違いである。サッダーム・フセインのクウェイトでの行動、アラブの統一を引きさいた行動をみて、アラブ世界ではだれも「フ」国王にみみを貸さなくなつた。今やジョルダンとサウデイ・アラビアを初め湾がん諸国の関係は悪いの一言につきる。湾がんアラブ世界で「フ」国王は評価されていない。ジョルダンはその役割を果たそうとする限り、イラクとイスラエルとのかんしよう地帯として生存するであろう。それをやめてイラクと同調しイラクの影響力が強まれば、国内に過激派も出現しジョルダンの役割は変わってしまう。

(総) 武力による侵攻は国際法上も人道上也許されず、国際社会は一致してねばり強く安保理決議に従いクウェイトからの撤退、正統政府の復帰、外国人の解放にイラクを従わせるべきである。わが国は武力による国際紛争の解決には反対であり、米国、アラブ諸国等国際社会のイラクの反省を求める行動に協力している。多国籍軍への協力20億ドル、しゅうへん国支援20億ドルがそれである。イラクに圧力をかけ続け国際社会の一致した努力によつてイラクが国際社会の求めるところを受け入れることを望む。

(総理) 自分もそれを望んでいる。ただ年末までにそれが不可能であれば事態はわれわれの手を離れてしまう。

ここ 別の件に触れたい。第一に、今次危機後は、石油価格が安定し産油国・消費国双方の利益となるよう努力したい。第二に日本の技術協力に感謝している。今後とも双方の利益のために協力を続けていただきたい。詳細は別途閣僚等がお話しをする。

サウデイ、ジエツダ、トルコ、ジョルダン、エジプト、イラク、米、OECDに転電した。(了)

Secret

Telegraphic Copy [blacked out] 04-035

Number R202541

Primary: First Middle East Division

October 9, 1990 [time redacted]

Sent [from] Oman

October 9, 1990 [time redacted]

Arrived [at] Ministry

[to] Minister of Foreign Affairs

[from] Ambassador Obara [Takeshi]

The Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting with Sultan Qaboos)

No. 705 Secret Top Urgent [blacked out]

On October 8, Prime Minister Kaifu had a meeting with Sultan Qaboos at the Sultan's palace from 7 p.m. for approximately one hour. Following is a summary of the meeting's main points. (Attending the meeting from our side were Owada Hisashi, Deputy Minister for Foreign Affairs; Ambassador Obara Takeshi; and Watanabe Makoto, Director, Middle Eastern and African Affairs Bureau. Attending from the other side were; Sayyid Thuwaini bin Shihab, personal representative of the Sultan; Qais al Zawawi, Deputy Prime Minister; Omar al Zawawi, advisor to the Sultan; and Haitham bin Tariq, Undersecretary of the Foreign Ministry for Political Affairs. Interpreter: Tsuruoka Koji).

Prime Minister Kaifu: I offer you heartfelt congratulations on the 20th anniversary of your accession to the throne. I saw on the car trip from the airport the modernization of Oman over these 20 years.

Sultan Qaboos: Thank you for your visit at a time when you are so busy. Of those 20 years, I had to spend the first five pacifying a civil war. The development is something from the past 15 years. Consequently, it was necessary to run.

Prime Minister: Japan and Oman, both maritime nations, are in a relationship of cooperation. I hope that this visit serves as an opportunity to further advance relations of mutual dependence between our two countries.

Sultan: I thank you for your kinds words. Japan is surrounded by the sea on four sides. Oman is surrounded by the sea on three sides and the sea that is the desert on the fourth side. I hope, on the occasion of your visit this time, that the Japan-Oman relationship, which has a strong base, makes further progress like that of laying bricks atop one another.

You may not be aware of this, but my grandfather lived in Osaka after he abdicated. My family has a long relationship with Japan.

Prime Minister: I am aware that His Excellency your grandfather resided in Kobe for three years and that he was with a Japanese woman. In Japan, people continue to speak of it with a sense of familiarity. The Japanese people have warm feelings towards Oman. That is why I would like extend an invitation to you to visit Japan at your convenience sometime between autumn next year and the spring of the following year.

Sultan: Thank you. I truly wish to consider accepting it. There are some factors that I

must consider. Should God allow me to visit Japan, I would be delighted to do so. I thank you for your invitation.

Prime Minister: I had planned to invite you earlier but postponed the invitation due to Iraq's invasion of Kuwait. Please understand. Also, I thank you for kindly welcoming me on this occasion.

Sultan: The invitation at that time was not suitable. I appreciate Foreign Minister Nakayama's being sent here. Your visiting this region at this time shows that Japan is interested in the Middle East and is seeking to deepen its understanding of the region. It gives us a sense of security that Japan, even though geographically far away, is close to us in the sense of your way of thinking and standing together with your friends.

Prime Minister: I respect your efforts as president of the Gulf Cooperation Council (GCC). Japan fundamentally cannot accept armed invasion. We believe that, in accord with United Nations resolutions, the matter must be settled in a just and peaceful manner. I came here from a desire to offer political support to countries that have the same position. I would like to take this opportunity to ask you, Your Majesty, about your views on the future of this situation and the prospects for a peaceful resolution of it.

Sultan: There are two ways of thinking about it in the Arab world. One is the thinking that, with some give and take, a peaceful resolution is possible. This is the thinking of a minority. The other, the majority's way of thinking, is that, because of Iraq's stance, with no sign of withdrawal or negotiation, there is no hope for a peaceful resolution. Neither the minority nor the majority accepts the invasion of Kuwait. Both criticize this act and call for withdrawal. The first way of thinking sees a way to settle the issue by bargaining with Iraq. The second way of thinking is that of the general position around the world, the position of the United Nations Security Council, the Arab League, the Organization of Islamic Cooperation, and other organizations, which is that Iraq must unconditionally withdraw and that there is no path of dialogue with Iraq. Personally, I do not know whether or not Iraq will withdraw peacefully. There is no sign of that at present. As seen in Saddam Hussein's recent visit to Kuwait, Iraq is strengthening its occupation and adhering to its position. What Iraq is probably hoping is that, with the passage of time as things stand now, the occupation of Kuwait will become accepted. Therefore, Iraq is trying to link this issue with Palestine and other issues and so divert attention elsewhere. I believe that the world will not accept that and will continue to apply pressure for Iraq's withdrawal. I believe in the possibility of withdrawal. Iraq could make a U-turn. In that case, because there are hostile plots against Iraq throughout the world, Iraq may withdraw in order to remain independent. There exists the view that we cannot exclude this possibility.

Prime Minister: I am deeply concerned about the future of this matter. Iraq is considered to be a self-righteous country that does not heed the views of others. However, the problem now is not one of Arabs alone. It is the whole world's problem. The United States, the Soviet Union, and Japan all support the United Nations resolution for the restoration of peace in the Gulf. In Amman, I met with Iraqi First Deputy Prime Minister Ramadan and stressed repeatedly that the world would not accept subjugation by military force and that Iraq must decide to withdraw and restore Kuwait's legitimate government. He did not respond, however, and we remained far apart. For the sake of justice in international society, there is a need for international society to join together and press Iraq to repent.

Sultan: My sentiments are exactly the same. The Iraqis think that it will be impossible for the Americans and the Europeans, with their democratic systems, to continue to apply pressure. They think that public opinion and the business community will not tolerate the continuation of sanctions and that they will change the thinking of those governments, which will result in a favorable situation for Iraq.

As for how the crisis will end, this is only a guess, but I believe that, from the viewpoint of opinion in the region and among the countries sending military forces, the military forces and number of troops developing at present in Saudi Arabia and the region are not sustainable in the long term. Waiting for action, without it they will lose confidence. I sincerely hope that the issue will be settled peacefully. I hope that it will be settled within the next two months. If that turns out to be impossible, then we will have to consider another way. Otherwise, terrorism and other problems will

occur. I cannot confirm it, but there is information that there exists the possibility of military men who escaped from Kuwait firing the first shots and sparking military action. This is likely a sign that people are trying to come up with a way to break the deadlock. There is smuggling in Iraq, and they may think that the sanctions are not a problem. Frustrations are likely to grow at the end of the year. Iraq and others are saying that the United States and other nations are seeking not a resolution of the crisis but a strengthening of their influence over oil. People will believe such remarks as they are repeated, so it is necessary to argue that they are not true.

Prime Minister: King Hussein of Jordan offered his regards to Your Majesty. King Hussein has been making every effort since the crisis arose to try and settle it somehow. What do you think about the resolution that King Hussein has in mind? Jordan, which borders Iraq and Israel, is in an extremely difficult position. On the other hand, I think Jordan is important for regional stability in the medium to long term.

Sultan: King Hussein, as a fellow Arab monarch, is a brother to me and a close friend. I imagine that King Hussein will do his best as long as there exists the possibility of a peaceful settlement. Unfortunately, however, as far as this issue is concerned, King Hussein has lost the confidence of his Arab brothers. The reason is that he has praised Saddam Hussein for being kind, thoughtful, wise, magnanimous, and for having the Arab cause in his heart. King Hussein probably believes this, but it is a mistaken judgment. After seeing Saddam Hussein's actions in Kuwait and his tearing Arab unity apart, nobody in the Arab world listens to King Hussein. Relations now between Jordan and Saudi Arabia and the other Gulf countries are, in a word, bad. King Hussein is not appreciated in the Gulf Arab world. Jordan will survive as a buffer zone between Iraq and Israel so long as it seeks to play that role. If Jordan should stop and side with Iraq, and should Iraq's influence grow, then domestic extremists will emerge and Jordan's role will change.

Iraq's armed invasion is unacceptable for international legal and humanitarian reasons. The international community must unite and, following Security Council resolutions, force Iraq to withdraw from Kuwait, restore the legitimate government, and let the foreigners there go free. Japan opposes the settlement of international conflicts by force and is cooperating with the actions of the United States, Arab countries, and the international community to call on Iraq to repent. Part of that is giving two billion dollars for the multinational forces and two billion dollars in support of the surrounding countries. I hope that, by continuing to put pressure on Iraq, and with the united efforts of the international community, Iraq will accept the demands of the international community.

Prime Minister: I hope so, too. However, if that is not possible by the end of the year, the situation will be out of our hands.

Sultan: I would like at this point to raise a separate issue. First, after the crisis, I would like to work to stabilize energy prices for the benefit of both oil producing and consuming countries. Second, I would like to express thanks for Japan's technical cooperation. I hope that we will continue to cooperate for the benefit of both sides. The details will be discussed separately by ministers and others.

Telegram passed to [Japan's] diplomatic missions in Saudi Arabia, Jeddah, Turkey, Jordan, Egypt, Iraq, United States, OECD. (End)